

2002.1月4日(金)～1月27日(日)

平成13年度企画展

「地球の息吹 富士彩々」写真展

地元小田原市風祭在住のアマチュア写真家 秋山英治氏が、長年にわたり撮りつづけてきた富士山の姿を紹介します。

数多い富士山の作品の中から、地球の息吹が伝わるような自然の姿を見せる富士山の作品約80点を展示します。四季折々、刻々と変化しながら様々な姿を見せる富士山、その一瞬をとらえた写真をお楽しみください。

2002.2月16日(土)～3月17日(日)

わくわく恐竜くらべっこ・復元に挑戦!

「みんなの手づくり恐竜展」

平成13年度文部科学省親しみ博物館づくり事業の委嘱を受け、当館では恐竜手づくりプロジェクトをすすめています。秋には恐竜模型部門とジオラマ部門について恐竜復元に挑戦する参加グループを募集しました。子どもたちによる恐竜模型やジオラマ作品を展示します。また会場には、恐竜折り紙にチャレンジできるラウンジも開設します。

ライブラリー通信 図鑑の元祖

様々な事物について調べものをする時に不可欠なのが各種の図鑑類ですが、この図鑑という言葉はいつ頃から書名の中に用いられるようになったのでしょうか。また最初に図鑑として刊行された図書とは何だったのでしょうか。

明治以前に刊行された図書で、書名に図鑑と付いたものはないようです。もちろん今日でいう図鑑の類いがなかったわけではありません。今でも時々書名に用いられていますが、江戸期までは一般に図鑑の類いは『図譜』とか『図説』と呼ばれていました。また魚類の図鑑であれば『魚譜』、花の図鑑であれば『花譜』というふうに『譜』を付けた場合も多くみられます。この他に『図会』とか『図集』というのも内容的には現在の図鑑に相当するものかもしれません。『図説』や『図譜』の全体の構成、レイアウトが現在の図鑑とかなり違っているのは当然ですが、決定的な相違は今日では当然だと思われる索引、インデックスがほとんど付いていない事です。索引は必要とする内容、事項を効率よく検索するために図鑑類にあっては不可欠なものです。なぜか日本では索引が発達せず一般化するのは大正年代に入ってからだと言われています。(『平凡社世界大百科』索引の項)

さて、これまで最初に刊行された『図鑑』は『近代日本生物学者小伝』(1988 平河出版)等によれば明治40年(1907)に牧野富太郎が北隆館から刊行した『植物図鑑』で、これが本邦における最初の精密な植物図鑑だといわれていました。ところが、全国の公共図書館や大学図書館等の蔵書を検索してもこの図鑑の所蔵館はどこもありません。検索の結果、最も最初に刊行されたと思われるのは、明治41年(1908)に北隆館から東京博物学研究会編纂で刊行された『植物図鑑』です。不思議に思っていたところへ、俵浩三著『牧野植物図鑑の謎』(1999 平凡社)が刊行され、一読するなりそれまでの疑問が氷解しました。

『牧野植物図鑑の謎』によれば、明治40年(1907)に刊行されたとされる牧野の『植物図鑑』は幻に過ぎず、前述の東京博物学研究会編纂で刊行された『植物図鑑』が確認できる最初の植物図鑑であり、牧野は校訂者として関わったに過ぎなかったことが明らかにされています。編纂者の東京博物学研究会というのは村越三千男という人物が中心となって作った研究会といわれていますが、彼の伝記についてはほとんど伝わっていません。村越の名は牧野という偉大な植物学者の盛名の背後に隠れてほとんど忘れ去られていましたが、『牧野植物図鑑の謎』で紹介された事により多くの人々が知るところとなりました。この本では、その村越と牧野が当初は協力関係にありながら、その後次第に互いの植物図鑑の刊行をめぐる確執を深めていった経緯が詳しく描かれていて、人間ドラマとしても面白く読めますので、ご一読をお勧めします。

ところで、前述の明治41年刊行の『植物図鑑』が図鑑と付けられた最初のものかというところではないようです。俵氏の調査によれば明治24年(1891)年に刊行された『工藝図鑑』(京都 田中治兵衛)が目下のところ最初に図鑑と名付けられた図書ではないかということです。もちろん、それ以前に刊行された図鑑が今後見つかる可能性もあります。明治24年以前に刊行された図鑑の存在についてご存知の方がおられましたら、是非ライブラリーまでご連絡ください。

(司書 内田 潔)

催し物のご案内

●室内実習

植物分類研究講座

「常緑広葉樹を見分ける」[博物館]

日時/1月26日(土) 13:30～15:30

対象/一般20人

申込締切/1月8日(火)

●野外観察

「野鳥観察会」[秦野・弘法山]

日時/1月27日(日) 10:00～15:00

対象/一般30人

申込締切/1月15日(火)

●野外観察

「アニマルトラック」[博物館周辺]

日時/2月3日(日) 10:00～15:00

対象/小学5年生以上30人

申込締切/1月22日(火)

●室内実習

「ダイバーのための魚類学入門」[博物館]

日時/2月10日(日)・17日(日)の2日間
9:30～16:00

対象/18歳以上のダイバー10人

申込締切/1月29日(火)

●室内実習

「貝の形をしらべよう」[博物館]

日時/2月23日(土)・24日(日)の2日間
10:00～15:00

対象/小学生以上20人

申込締切/2月5日(火)

●野外観察と室内実習

「身近な箱根の地質・地形を学ぼう」

[博物館と根府川周辺]

日時/3月1日(金)13:00～15:00・8日(金)10:00～15:00の2日間

対象/一般20人

申込締切/2月12日(火)

参加について

上記の催し物について、事前申込が必要な場合があります。特に記載の無いものは参加無料です。応募多数の場合は抽選となります。参加方法や各行事についての詳細をお知りになりたい場合は、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ホームページでも詳細を見ることができます。

申込・お問い合わせ先

〒250-0031 小田原市人生田499
神奈川県立生命の星・地球博物館企画情報部
電話 0465-21-1515
ホームページ
<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/museum/g.html>